



第3回 コミュニティスペースフォーラム

「まちづくり」は ← → コミュニティづくり!!

～千葉県柏プロジェクト・高島平地域グランドデザインを検証～

13:20～13:25	開会あいさつ	
第1部	団地再開発の全国モデル 千葉県柏プロジェクトの経緯	
13:30～14:00	「柏市・UR・東大の3者による長寿社会のまちづくり —在宅医療・就労支援に力— 講師：木村 清一氏 (東京大学高齢社会総合研究機構／元柏市役所福祉部長)	 <p>東大研究者 来たる!</p>
14:00～14:20	対談「住民の声をまちづくりに活かすには？」 ■ 木村 清一氏 VS. 佐々木 令三氏 (NPO法人健やかネットワーク)	
第2部	2020年以降の高島平に何が必要か？	
14:30～14:45	「高島平地域グランドデザイン(案)の概要」 ■ 解説者：矢淵 義成氏 板橋区都市整備部 拠点整備課 拠点整備担当係長(特命事業グループ)	
14:45～16:00	パネルディスカッション「実践者が語る！多世代が住み続けたいまちとは」 テーマ① 子育て、介護・医療、生きがいづくりから見える高島平の現状と未来 テーマ② 人と人が出会い支え合いの拠点となるコミュニティスペースの役割とは テーマ③ 住民参加型でまちづくりを進めるために必要な方法論とは ■ ファシリテーター：浅川 澄一氏 (いたばしコミュニティスペース連絡会) ■ パネリスト：宮坂 幸正氏 高島平三丁目自治会会長、町会連合会高島平支部理事 佐藤 恵氏 佐藤クリニック、板橋区医師会在宅医会会長 本橋 勝氏 高島平地域創造会議理事、一級建築士、コミュニティアーキテクト 近山 恵子氏 一般社団法人コミュニティネットワーク協会 副会長 村中 義雄氏 高島平ルネッサンス合同会社代表、高島平新聞社会長 酒井 広美氏 NPO 法人ドリームタウン 理事	
第3部	全員参加型ワークショップ 私たちが考えるコミュニティづくり	
16:10～17:10	対話 「一人でも始められる事」、「みんなでなら出来る事」。 グループごとに、「暮らし続けたい地域」を描きます。	
17:10～17:40	発表 明日から始められることから、理想の地域の姿まで、 私たちのアイデアを発表して共有しよう！	
17:40～17:45	閉会あいさつ	
18:00～19:45	懇親会(自由参加)	
日 時：2015年9月23日(水・祝) 13:20～17:45 (開場 13:00) 懇親会(自由参加) 18:00～19:45		

日 時：2015年9月23日(水・祝) 13:20～17:45 (開場 13:00)
懇親会(自由参加) 18:00～19:45
場 所：高島平区民館ホール(高島平 3-12-28, 三田線高島平駅西口徒歩3分)
参加費：1,000円 懇親会(自由参加)1,500円
定 員：150名 ※当日参加も可能ですが、出来るだけ前日までにお申し込み下さい。
申込先：itabashi.cs@gmail.com 03-6906-6578 (11～17時)

主催：いたばしコミュニティスペース連絡会 後援：高島平新聞社、長寿社会文化協会(WAC)、いたばし総合ボランティアセンター、板橋区社会福祉協議会、板橋区
※「第三回コミュニティスペースフォーラム」は、日本財団の助成を受けています。

第1部 講師・対談者紹介

講師

木村 清一 氏（東京大学高齢社会総合研究機構、元柏市役所福祉部長）

1974年柏市採用。健康推進課長、高齢者支援課長などを経て、2008年保健福祉部長。2011年3月柏市退職後、現職。長年の福祉行政の経験を生かして、柏プロジェクトでは連携コーディネーターとして活躍。地方自治体の果たすべき役割を求め①市民との協働の在り方。②行政の市民活動支援施策。③人材育成への対応。④財源確保などの視点から、長寿社会のまちづくりに取り組んでいる。



対談者

佐々木 令三 氏（NPO 法人健やかネットワーク代表、たまりば・とうしん運営）

「協働」「連携」などの言葉が空々しく更に虚しく感じているのはわたし一人でしょうか！！今回のお話と対談から「みんながその気になる・させる術」を学びたいと思います、私もワクワクしています。



第2部 解説者・ファシリテーター・パネリスト紹介

解説者

矢淵 義成 氏（都市整備部 拠点整備課 拠点整備担当係長（特命事業グループ））

1965年生まれ。一級建築士。1990年より板橋区職員（建築技術職）。建築指導課、営繕課、建築指導課、市街地整備課を担当し、区施設の設計や大谷口まちづくり改良事業等を経て2015年より高島平地域まちづくり担当となる。



ファシリテーター

浅川 澄一 氏（福祉ジャーナリスト、元日本経済新聞編集委員）

1971年慶応大学卒業後、日本経済新聞社に入社。1987年に月刊誌「日経トレンド」を創刊、初代編集長。流通経済部長、マルチメディア局編成部長などを経て、1998年から日本経済新聞編集委員。海外や日本の医療介護事情、高齢者住宅に関する調査・研究に精力的に取り組む。公益社団法人・長寿社会文化協会（WAC）常務理事。板橋区高島平在住。



パネリスト

宮坂 幸正 氏（高島平三丁目自治会会長、町会連合会高島平支部理事）



高島平地区青健理事や高五小運営協議会委員、社会福祉法人ひいらぎ福祉会理事等、地域活動に従事している。過去に、高三中PTA会長や板橋区立中学校PTA連合会会長を歴任。高島平小地域ネットワークでは、高島平音楽祭実行委員長、高島平舞祭り実行委員長等を経験。長野県茅野市生まれ。61歳。

佐藤 恵 氏（佐藤クリニック、板橋区医師会在宅医会会長）



西高島平で午前は外来診療、午後は訪問診療を行う。「診療の場を患者さんの状態に合わせてながら、街づくりに参加できる町医者を目指しています」板橋区在住。59歳。

本橋 勝 氏（高島平地域創造会議理事、一級建築士、コミュニティアーキテクト）



「バリアフリー住宅読本」「建築とまちづくり」他執筆。板橋区基本構想・バリアフリー総合計画（志村地域）等受託、大谷口小改築委員等歴任。民間建築企画・設計担当（福祉・医療・集合住宅・商業）他。一級建築士、福祉住環境コーディネーター。高二中卒、高島平在住。

近山 恵子 氏（一般社団法人コミュニティネットワーク協会 副会長）



1949年、新潟県生まれ。母親の介護をきっかけに「老後・介護・女性」問題に関心を持つ。これまで「友だち村」「ゆいま〜るシリーズ」等多くの高齢者住宅をプロデュース。「世代や立場を超え、お互いの生活を尊重しながら、ともに支え合う仕組みのある『まち』づくり」に多角的に取り組んでいる。著書『こんにちは「ともだち家族」』（風土社）等。

村中 義雄 氏（高島平ルネッサンス合同会社代表、高島平新聞社会長）



コミュニティーカフェ・高島平駅前運営。当時東洋一のマンモス団地といわれた「高島平団地」の入居と共に「高島平新聞」を創刊。大学と地域の連携による高島平再生プロジェクトの発起人の一人。

酒井 広美 氏（NPO 法人ドリームタウン 理事）



2005年 武蔵野市のコミュニティスペース「花時計」にボランティアとして参加。お母さんたちが地域で活躍しているのを見て感動したことが活動の原点となる。2011年より板橋区高島平に拠点を置くNPO 法人ドリームタウンの活動に参加。高島平団地にて「地域リビングプラスワン」の立ち上げに携わり、現在に至る。1男1女の母。板橋区高島平在住。